

無菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎とは

- ・小児を中心に毎年夏に流行します。
- ・原因細菌が見つからない髄膜炎のことで、様々な病原体が関与しています。
- ・大部分がウイルスによる感染であり、主な病原体はエンテロウイルス属です。
- ・エンテロウイルス属にはコクサッキーウイルス、エコーウイルスなどがあり、年により無菌性髄膜炎の流行を起こすウイルスや血清型が異なります。
- ・2015年はエコー18型が流行しましたが、過去にはエコー6型、30型などのウイルスが流行しました。

無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルス上位3位（検出割合）

| | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 |
|----|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 1位 | エコーウイルス 6型 (21%) | エコーウイルス 6型 (19%) | エコーウイルス 30型 (18%) | エコーウイルス 18型 (18%) |
| 2位 | コクサッキー ウイルス B5型 (11%) | エコーウイルス 30型(18%) | エコーウイルス 11型 (14%) | コクサッキー ウイルス A9型 (10%) |
| 3位 | エコーウイルス 7型 (11%) | コクサッキー ウイルス B3型 (11%) | コクサッキー ウイルス B5型 (6%) | コクサッキー ウイルス B5型 (7%) |



症状

- ・原因ウイルスによって症状が異なりますが、発熱・頭痛・嘔吐が主な症状です。
- ・項部硬直がみられ、乳幼児では不機嫌・易刺激性（音や接触到過敏になる）等の症状が認められます。
- ・エンテロウイルス属が原因の場合、一般的に予後は良好ですが、まれに急性脳炎を起こすことがあり注意が必要です。



予防

エンテロウイルス属の感染予防では、手洗い・うがい・患者との濃厚な接触は避けることが重要です。症状が疑われるときには速やかに医師の診断を受けましょう。

※福岡市保健環境研究所では、平成4年から感染症発生動向調査事業を実施し、無菌性髄膜炎患者からウイルス分離・検出を行っています。